

# 日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

\* 主な記事 学会第13回大会のご感想等 マリア氏を迎えて研修会報告 その他

2019年11月23日 JPTA事務局 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢8-10-7  
メールアドレス info@j-pta.net FAX 03-3702-3097

日本パペットセラピー学会第13回大会は「対話を促進するパペットセラピー」をテーマとした、対話ダイアログの理論を学ぶことでパペットセラピーの有用性が確認でき、大会前日当日ともに実践面にも力を入れ、理論と実践をつなぐ貴重な大会であったと実感しております。(副理事長 中下富子)

## ♡日本パペットセラピー学会第13回大会 大会長 ご挨拶♡



### 第13回大会を終えて

10月20日(日)神奈川県相模原市にあります、相模女子大学ガーデンホールにおいて、「対話を促進するパペットセラピー」をテーマに第13回大会が開催されました。

毎週のように台風が関東各地に甚大な被害をもたらした今秋、お天気が心配されましたが、大会中には晴れ間ものぞき、穏やかな秋の一日となりました。

62名という沢山の方が一同に会してさまざまな角度からパペットを用いた対話について学びました。26名の非会員の方々が参加され、多くの方から「とても楽しかった」、「パペット使用の有効性を実感した」といった感想を頂きました。

**教育講演**では、医療人類学がご専門の浮ヶ谷幸代先生が、沢山の事例を交えて、「他者の他者性」を尊重し、問題解決を急ぐことなく対話を重ねることの意義をお話し下さいました。

**シンポジウム**では、ワークショップの開き方の具体例を学ぶと同時に、昨年急逝されたウェンディー・モーガンさんの日本での子どもとのセラピーの映像を拝見する機会に恵まれ、子どもを引きつけエネルギーを引き出す技に触れることができました。

また**腹話術レッスン**や**パペット制作ワークショップ**では、参加者が互いにパペットを手に活発にやり取りをし、笑顔があふれていました。

統制群を設けてパペット使用の効果を検証した**研究**も発表されました。



対象者や目的に応じてパペットを効果的に使用することによって対話が深められることを実感できる大会となったのではないのでしょうか。

前日には**プレセミナー**「パペットセラピー入門」も行われ、大会終了後の懇親会まで、多くの皆様のお力添えにより充実した大会になりましたこと、心より御礼申し上げます。

(大会長 森平直子)



## ◇日本パペットセラピー学会第13回大会 副大会長 ご挨拶◇

日本パペットセラピー学会第13回大会は、大会テーマの「対話（ダイアログ）」を促進するパペットセラピー、その『対話（ダイアログ）』をキーワードにプログラムされた素晴らしい内容の大会になったのではないのでしょうか。



講演「対話（ダイアログ）とは何か」「文化人類学者が見た対話（ダイアログ）の力」を拝聴した後だからこそ、その思いを強く感じ、この『対話（ダイアログ）』により大会が成功したのではないかと思うと胸がいっぱいになります。研究発表「園児への絵本の読み聞かせの振り返り時のパペット使用の効果」も、3歳児との対話がほほえましく目に浮かぶようでした。

また、今回、腹話術レッスンをさせていただき強く感じたことは、皆様がパペットを片手にはめた瞬間の何とも言えない、やわらかく穏やかな表情が印象に残っていることです。この「パペットの持つ力は何だろう。」といつも感じるのですが、パペットが動き出すと空気が変わり、私までエネルギーを皆様からもらったように感じます。「パペットの力は、

やわらかく穏やかな笑顔と場の空気を癒し、対話をより発展させる」と強く思うと同時に、こんなに素晴らしい皆様が、パペットセラピー活動をされているのかと思うと胸が熱くなりました。

さらに、シンポジウム「ワークショップの開き方 私の場合」・パペット制作「目的やニーズに応じたパペットの制作と活用法」にて、ワークショップの方法やパペットの作り方の講義は、とても勉強になりました。パペットの持つ力を探り続ける良い時間となりました。

(副大会長 東海林照子)

## ☆パペットセラピストを育てる

### 第13回大会 理事長ご挨拶☆

第13回大会が森平直子大会長、東海林照子副大会長のもとに、「対話ダイアログ」をテーマに相模女子大学で開催されました。幸せな気持ちに溢れた一日でした。

パペットセラピーにおいて最も重要な、「対話 ダイアログ」について、心理学者の森平直子教授から、「対話」と「会話」の違いを分かりやすく例を示して教えて頂きました。

また、浮ヶ谷幸代教授から、今日注目の文化人類学の立場から講演を頂きました。先生のフィールドワークの場所は北海道浦河町周辺。オープンダイアログとの類似性で注目の場所です。沢山の事例を通してダイアログの力を確認できました。人の対話による関わりは、向精神薬に対して、「人ぐすり」とも呼ばれます。オープンダイアログの創始者セックラの「下心のないかわり」、ロジャースの「ジェニユイネス」との共通性も考察して下さいました。今後の私共のパペットセラピーに深みを与える事が出来たと、お二人の学者に感謝申し上げます。

今回の大会は、会員がパペットセラピストとして活躍出来るよう、実践にも力点を置いていただきました。大会前日のプレセミナーでは安藤倫子講師によるパペットセラピーの理論と実践の講義が行われ、初心者には基本テクニックの習得に役立ち、また熟達者にとっては自身がワークショップを開く際のお手本となりました。大会の中でも、同様の趣旨で東海林照子講師の腹話術レッスン、原美智子、岡信行両パペットセラピストによるシンポジウム、パペットセラピストの矢崎育子講師によるパペット制作の指導がありました。

すべてのプログラムを通してパペットセラピーの理論と実践のレベルアップが出来たと実感した大会でした。会を支えて下さった理事・実行委員各位に御礼申し上げます。

(理事長 原美智子)





## ○日本パペットセラピー学会第13回大会に参加して○



10月20日に相模女子大学(大会長 森平直子 同大学教授)で、「対話(ダイアログ)を促進するパペットセラピー」というテーマで今年度の大会が開催されました。

昨今、豊かな人間関係をもつことが出来なくなっている場合が多いといわれていますが、パペットが対話を成立させるための役割をどう担うのか興味あるテーマだと思いました。腹話術レッスン、研究発表、教育講演、シンポジウム、人形制作と盛り沢山の内容でしたが、あっという間に一日のプログラムが終了してしまったという印象でした。

研究発表は1つだけで寂しい感じではありましたが、心理学を学び卒業でパペットセラピーを研究された二人の学生さんの幼稚園児への絵本の読み聞かせでパペットを活用した取り組みは、パペット活用の有無による園児の反応に違いがあり、パペットの持つ可能性を感じました。

教育講演「文化人類学者から見た対話の力」も、有名な北海道浦河ベテルの家等でのフィールドワーク研究であり、精神に障害のある方々が素晴らしい人間関係を構築されていく取り組みで興味深いものでした。

ワークショップの開き方の事例も、パペットセラピーをより多くの人に啓発し仲間を広げるにはとても重要なことだと思いました。様々な場でエネルギーに活動されている矢崎さんのパペットたちの活躍ぶりも素晴らしく、参加者がそれぞれユニークなパペットを作り上げたことも有意義でした。

今、私が取り組み始めている「ダイアログインザダーク」全盲の子どもたちとのパペットによる会話の追求に大変参考になる大会でした。ありがとうございました。



(副理事長 高村豊)

## ★第13回大会前日プレセミナー

### 「パペットセラピー入門」感想★



今回の大会では、前日にプレセミナーが大会と同じ会場で午後2時から3時間開催されました。パペットセラピーの発信、普及のため、さらに、大会前に、パペットセラピーの概要を知っていただく趣旨でのプレセミナー設営でした。

講師は、日本腹話術師協会理事であり、当学会会員でもおられる、腹話術師の安藤倫子先生(写真下段)でした。会員12名、非会員4名、学生1名の17名が参加しました。

内容は、講師の腹話術ショーから始まり、パペットセラピーにおける腹話術師のテクニック、腹話術基本レッスン、腹話術のサンプル台本を使った練習とグループ内での発表、参加者によるお披露目、質疑応答などの構成でした。

安藤先生は、犬の「小次郎君」や鳥の「キョロちゃん」、人生経験豊かな「みねふじこさん」たちを、腹話術ショーの時だけではなく、セミナーの時間に登場させ分かりやすくパペットセラピーの理論や、パペットを生き生きと動かすなどの対話するための基本的な技術を教えて下さいました。

参加者の腹話術のお披露目では、先生の導き方が素晴らしかったので、台本は同一でしたが、その人らしさがかもし出る発表となりました。参加者の笑顔は絶えず、3時間はあっという間に楽しく過ぎました。

(理事・スクールカウンセラー 江川久美子)



## 学会第14回（2020年度）大会 大会長 ご挨拶ご案内



会期：2020年（令和2年）10月4日（日）

会場：東京都豊島区・全国心身障害児福祉財団ビルで開催いたします。

本来なら地方での開催となりますが、諸事情により今回は東京での開催となりました。

テーマ：「パペットセラピーの実践を通して得たもの、学んだこと」というタイトルで開催します。

セラピーとしてのパペットの活用で素晴らしい結果を得た方も多い中、思うような結果が出ない、継続的に活用する必要を感じながらもなかなか続かないなど、種々問題意識をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。それぞれの思いを持ちながらもそれでも前進し続けている方が多いかと思えます。

今回は、14年間続いた日本パペットセラピー学会の会員相互の理解を深めるとともに、パペットセラピーを通しての社会活動の在り方を考え、さらなる学会の発展につながればと思います。

（第14回大会 大会長 千葉俊一）

## マリア氏を迎えてのパペット制作ワークショップ報告

シャロームパペットの考案者でもあるイスラエルの人形作家のマリア氏 (Ms. Maria Gurevich) をお迎えしてパペット制作ワークショップが開催されました。

日時：2019年11月4日（祝） 午前10時半～12時

会場：全国心身障害児福祉財団ビル7階大会議室



マリアさんが、右写真のような頭部を作られているところを見学して参加者が自宅で作れるようにご指導をいただきました。

器用に緻密にハサミやカッター等を使われ、プラスチックスプーンの裏側にマジックで眼球を描いたり、身近にある物でパペットやその顔に表情を作ったり、工夫を凝らしておられる様子が感動的でした。

ワークショップ終了後は和食を食べながら簡単な歓迎会を行いました。マリアさんとお連れの方と参加者で、イスラエル人の言語はヘブライ語ですが、英語や日本語で自由に和気藹藹と歓談をいたしました。



### 「事務局だより」

学会では、パペットセラピストの養成に力を入れていきます。研修会も今後行っていきますので、是非ご参加ください。

パペットセラピストの申請要件は、ホームページのパペットセラピストの項目に掲載してありますので、対象となる会員の方は積極的に申請をお願いします。なお、申請の締め切りは、毎年5月末となっています。

研究論文の書き方についても、事務局にご連絡いただければ、ご相談に応じます。



（事務局 阿部雅代）